

政治家の政策位置分析

～イデオロギーを量的に記述する～

研究発表

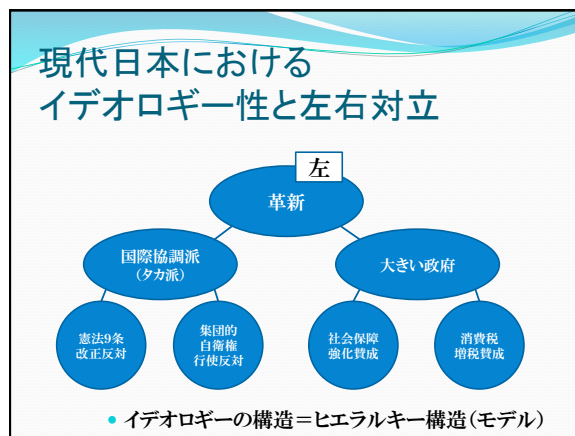
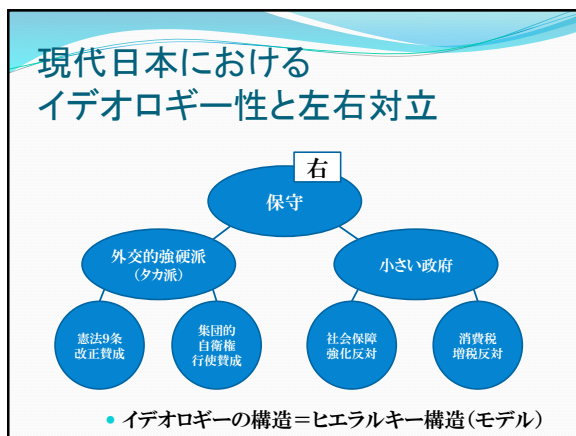
石田、河原、佐々木、下村、鈴木、矢代、ローブリイ、大賀

イデオロギーとはなにか

1. 思想・意識の体系を、単純な言葉・イメージ・シンボルなどによって表現したもの
2. 集団が、どのような社会が望ましいのか、それに到達するにはどうしたらよいかを示すために用いるもの
3. 首尾一貫した信念や態度のまとまりで、社会や政治の認知・評価・態度や、政治行動などを規定する要因

蒲島郁夫・竹中佳彦[2012]
「イデオロギー 現代政治学叢書8」東京大学出版会

- 一貫した観念・信念・態度の「体系」/考え方の枠組み
- 個々の問題への態度を統括する、さらに上位の概念



イデオロギーの有効性

- 「イデオロギーの説明力の低下」の指摘もある。
- 「イデオロギーの終焉」論
- 政党間対立に対する認識の世代分断
 - Masahisa Endo & Willy Jou [2013] "How does Age Affect Perceptions of Parties' Ideological Locations?" (日本選挙学会報告論文)
 - 50代以上に共有されている自民-共産の「保革イデオロギー」による政党間対立が、20代・30代・40代には共有されていない。
- 尺度/分析ツールとしての「イデオロギー」

研究の目的・意図

- 先行研究:2004年度田中愛治ゼミの研究
 - 自民党総裁と野党の主要な党首の演説を内容分析
 - 読売新聞・早稲田大学の共同調査による研究に貢献
 - 田中愛治[2009]「自民党衰退の構造:得票構造と政策対立軸の変化」『2009年、なぜ政権交代だったのか -読売・早稲田の共同調査で読みとく日本政治の転換』勁草書房(第1章)
- 約10年が経過した今、改めて分析を行い発表する意義
- 政権交代という大きな政治的変動を経験した日本

分析の方法

- Content analysis — 内容分析
 - 政治家の演説の全文を、計量的に分析する。
 - 経済、外交・安全保障、国内政治、社会文化の4項目について(詳細は次スライド)、それぞれの政党の政策・主張を、保守-革新の軸上で数値化する。



- 分析対象
 - 2004年7月参議院選挙の翌日から現在までの、自民党・民主党・共産党の党首の演説が対象である。
 - 与党については、所信表明演説・施政方針演説を用いるものとし、野党については党大会での演説などを用いる。

<現代日本の政策対立軸>

	左派/革新派	右派/保守派
経済	大きい政府/福祉国家 公共事業/補助金	小さい政府/経済的自由主義 規制緩和・自由化
外交・安全保障	ハト派/国際協調派 対話・外交努力・護憲	タカ派/現実主義 勢力均衡論・武力威嚇/攻撃・改憲
国内政治	自由/分権 政治家・党員の自立性	統制/中央集権 政党・派閥の規律/党議拘束
社会文化	近代化/市民的自由 個人主義的・男女同権	伝統的/公共の大義 集団主義的・男女役割区別

田中愛治[2009]『自民党衰退の構造:得票構造と政策対立軸の変化』、『2009年、なぜ政権交代だったのか-読売・早稲田の共同調査で読みとく日本政治の転換』勁草書房(第1章), P12

分析の操作

- 政治家の演説本文の内容を、
 - 内容ごとに、どの軸上にあるか分類し、
 - +2 ...強い言葉で主張している or 具体的/長い説明がある
 - +1 ...主張している
 - 0 ...問題を指摘しているのみor左右の軸上にはない
 - 1 ...主張している
 - 2 ...強い言葉で主張している or 具体的/長い説明があると、いう基準で数字を付けていく。



分析の結果のまとめ

- 参考:
 - 『2009年、なぜ政権交代だったのか-読売・早稲田の共同調査で読みとく日本政治の転換』第1章『自民党衰退の構造:得票構造と政策対立軸の変化』(田中愛治)
- 経済次元(水平軸)と
 - 外交・安全保障次元(垂直軸)における政策志向(図1)
 - 国内政治次元(垂直軸)における政策志向(図2)
 - 社会文化次元(垂直軸)における政策志向(図3)
- ほぼ同じ位置で見にくくなる場合には、まとめてプロットした。

図1.経済次元(水平軸)と外交・安全保障次元(垂直軸)における政策志向

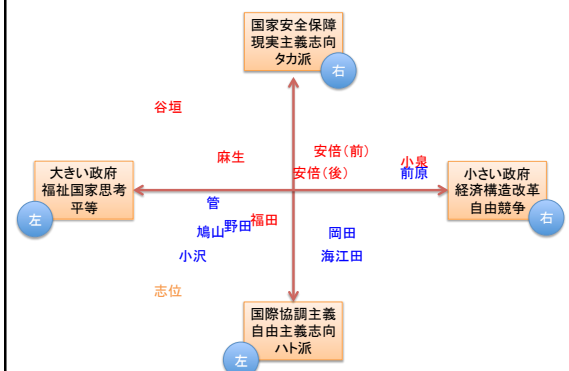
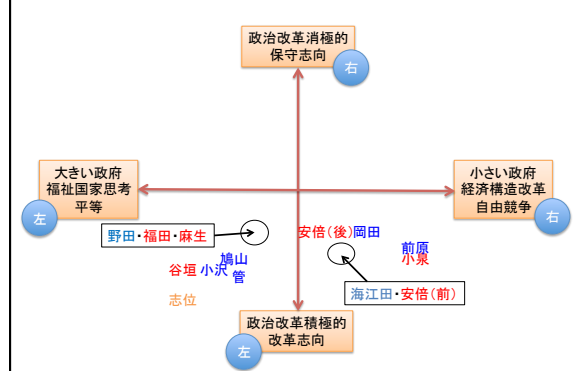
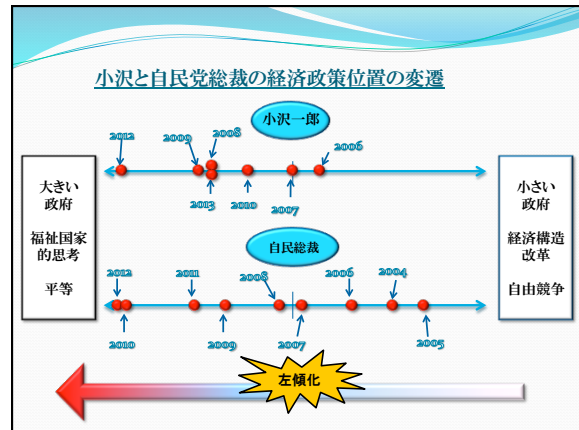
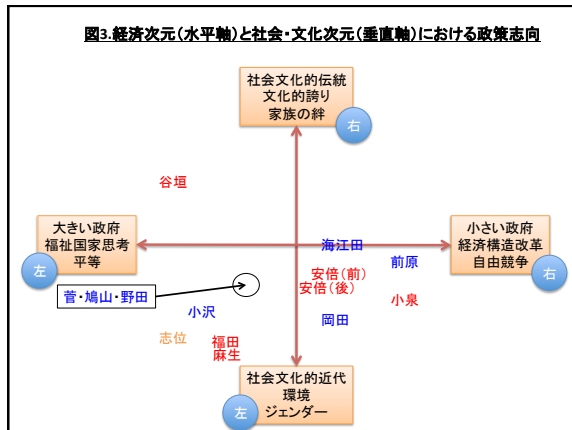


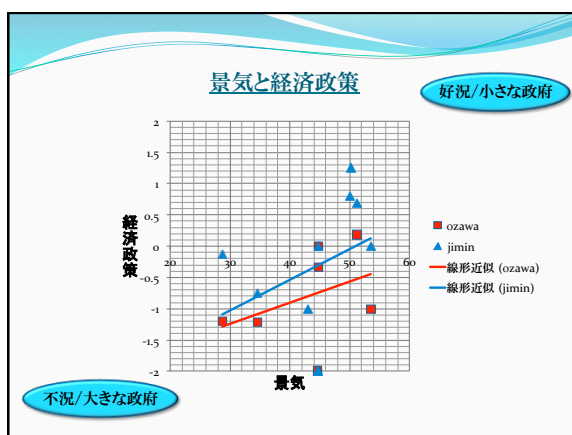
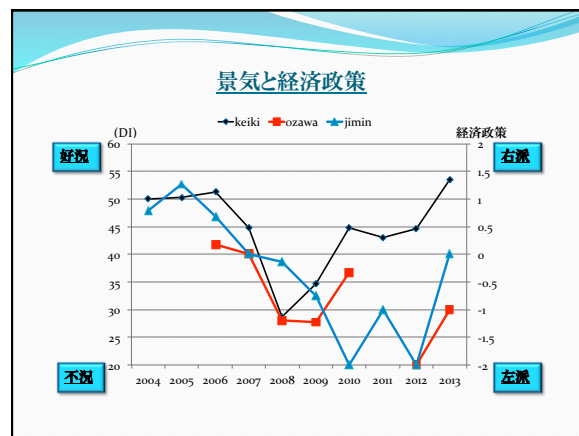
図2.経済次元(水平軸)と国内政治次元(垂直軸)における政策志向





※景気ウォッチャー調査について

- 目的: 景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすること
- 調査対象: 家計動向、企業動向、雇用等の代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる職種の中から選定した個人、2050人 (以上内閣府HPより)
- ▼ 他の指標より迅速に景況感を示す指標であると考えられる。
- ▼ 政策位置は、これからの方針を示すもの(演説本文)によって測定している。
- ▶ 同年度にプロットされていても、景気ウォッチャー調査指数が政治家の経済政策位置に先行していると考えられる。



示唆されること

- 政治家は、敵対勢力が掲げる経済政策の逆の政策を打ち出すとは限らない。
(政治家は敵対勢力が掲げる政策と逆の立場を採って対抗しているわけではない)
counter-intuitive
- 現実の経済状況が、政治家の経済政策に影響を与えていることが示唆される。
(政治家や党の政策は不変の思想・信条等によって決められるのではなく、現実に合わせて変化している)
- ◆ 2004年以降の経済政策の変化について言えば、
 - 自民党は党首を交換することによって
 - 小沢は自身が政策位置を変えることによって
 経済状況の変化に対応した、と捉えることもできそうである。